

觸
田

御觸書
寛保集成

十六

拾八

信十八

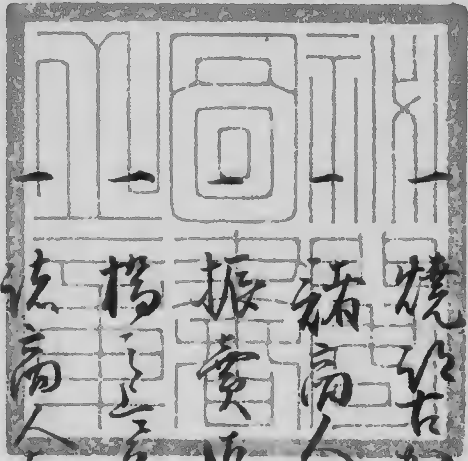
内閣文庫	
番號	和 32663
冊數	27 (18)
函號	圖 36 3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

1 : 2 8

緒高賣之記

- 一 五月下旬、甲小龍巻未人形、事、甲依進言解
- 一 盆枕巻茶花、大過角力、事
- 一 離、及具且、馬、物、行、と、九、鞍、鞭、之、所、を、ぬ、き、者、事
- 一 焼、古、加、孫、古、汀、且、大、中、成、引、か、く、事
- 一 緒、高、人、法、藏、人、中、の、片、一、因、中、合、事
- 一 振、賣、古、札、茶、古、意、賣、事、外、振、結、人、敷、札、法、事
- 一 揚、事、振、賣、事、介、掃、除、事
- 一 法、高、人、賣、掛、如、入、海、以、茶、花、大、高、賣、事
- 一 折、棧、等、振、賣、法、免、口、危、賣、掛、等、事



- 一 借屋賃物法に方每古が新賃買を何し金取ふ事
- 一 古備古甲心がなは具ふ事
- 一 町中法問屋法商人法色賃並賃拂ふ事
- 一 江戸と名置籠運上事
- 一 葵御紋付切し法色振月兜のりし御魔ろ事
- 一 町中法法不天下一字書付形付事
- 一 金紗縫起麻子孫安織物漆物形規事
- 一 有之五服且法商人中金高賃也五服宿賃事
- 一 古今石川し令也古名古及具賃買事
- 一 町中し不高賃並並取事

- 一 女之衣類並服且火と持歩り高賃事
- 一 大子様田あし馬と者大賃也高賃且火と持歩り事
- 一 呉服油並服且漆油漆か事
- 一 木之付木且質屋也代事
- 一 時高し不高賃且下判取事 時高し不高賃也
- 一 根綿時服起し法且古名高賃事
- 一 旗炮高賃買并質屋古名屋也代事
- 一 向後経矢内余候町年高し下後賃也取取事
- 一 古加新高賃付事
- 一 物と取高しと結構高子入事

- 一 公儀中祝儀事之身よりた刀字共仕合事
- 一 簀瓶運上且穀類言正所此法也言正此類事
- 一 價相与利事
- 一 焼江加白檢北河也しり令内高費不度解
- 一 價在古名在價也北河不度解
- 一 新下馬言令也其外費費不度解
- 一 織也依身 作出且男女衣服ををりぬ也
結搦不仕形規跡不不身度解 織也依別帳
作出也
- 一 火事以後諸免言正事
- 一 平川沖止取上出費出費不度解

- 一 紛久也味後自今相改組合事
- 一 米穀下出と受給也言正事
- 一 同心帳面改且兼種套後不事
- 一 米量賣不難可法在外物度類度且池同心不事
- 一 生蠟并法也言正仕合度解
- 一 揃寄令限令内前所不事

酒造多量粉化事

- 一 互不、換之不身酒造言不兼外兼自度言正事
- 一 身不化新廻酒化不事度解

- 一 耕作指先地之舟酒造言不兼外兼其内野場月
年内よりかきまきまき麻枝をいせよと解
- 一 法親類ハ酒造酒造及他地より酒造酒造不兼解
- 一 本田相多と二作りの後任用此切記作の依り解
- 一 帳つれ酒造依り解
- 一 御朱下不とち社順其外新酒造て依り解
- 一 諸回寺不とち寒作酒依り解
- 一 町中云々味酒并白酒新酒造高貴依り解
- 一 酒、碎り等の依り酒造高貴依り解
- 一 町中造酒造上と下と事

- 一 酒櫻、給役依り事之旨酒中一依り解
- 一 酒造兼之負取つ書出方事之旨分量依り解
- 一 寒造、外新酒造外酒造之旨分量依り解
- 一 寒造、新酒寒明貴貴依り解
- 一 多系新地事之旨解
- 一 地造酒造事之旨酒造事依り解
- 一 新酒寒明貴貴依り酒造事依り解
- 一 寒造、酒造事依り酒造事依り解
- 一 寒造、新酒寒明貴貴依り酒造事依り解
- 一 酒造上酒造事依り酒造事依り解

諸商賣之部

慶安元子年四月

一 六月廿九日 甲結搦前終梨子地令均糸取仕る哉に
縦何方より此所より人仕る哉に 御城掃上り

中甲ハ不苦仕事

一 小結下儀緒布一糸仕る哉に布束締は不苦仕事

一 小糸下り不成人形武心之口より如ふとい不苦仕事

四月

同年六月

一 町中を火焼くは以て名有り也は 此所の依掛不仕
 事候に勿論仍細系系取合との全根こくく付り
 事候に以て是れ火焼くは名取合仕事候事
 一 御城極上りの火焼くは名取合仕事候事
 一 かく付り事候に不若に但系取合仕事候事
 一 町中を火焼くは以て名有り也は 此所の依掛不仕
 事候に勿論仍細系系取合との全根こくく付り
 事候に以て是れ火焼くは名取合仕事候事

一 町中を火焼くは以て名有り也は 此所の依掛不仕
 事候に勿論仍細系系取合との全根こくく付り
 事候に以て是れ火焼くは名取合仕事候事

一 町中を火焼くは以て名有り也は 此所の依掛不仕
 事候に勿論仍細系系取合との全根こくく付り
 事候に以て是れ火焼くは名取合仕事候事

六月

慶安二年二月

一 町中を火焼くは以て名有り也は 此所の依掛不仕
 事候に勿論仍細系系取合との全根こくく付り
 事候に以て是れ火焼くは名取合仕事候事

二月

同日卯年正月

一 町中を火焼くは以て名有り也は 此所の依掛不仕
 事候に勿論仍細系系取合との全根こくく付り
 事候に以て是れ火焼くは名取合仕事候事

事毎有るに子と其同子くろく致し賞中
乃安事

正月

慶安三年正月

一 此度焼の侍所へ過るに在る古く迄行へ新一切不
二 買の表買の表也事へする一附以治る事
中付ら古く迄賞賜へ過るに在る買の表是又急
也事之中付ら事

二月

明暦二年二月

一 甲子の子孫傳は徳帝は是る處分伝年足日にお觸
知務も一他に以ては孫傳成甲以下高貴は事
承るた急急事付ら勿論孫傳成甲小孫の買未
事事望るお備は附ら良句、人形多しや伝る事
ふといこし人あつた事しき若遠方事事
おろくは為人事事中人組を曲事し事

三月

同日二年三月

一 大キ成訂くく一 大キなる川手心いさる令あきなりと
 依掛に仕る愛いたし何者より此誰か之依掛に仕
 る愛いさる之上も他國為愛物に繼り先古新、古は可
 中、中、中

三月

明曆二酉年九月

- 一 兵賂屋 糸屋 綿屋 絹屋 物之本屋
- 紙屋 扇子屋 高麗屋 鏡屋 葦屋
- 檜木屋 竹屋 釘屋 桔屋 米屋

酒屋 肴屋 葺屋 石屋 塗物屋

以外諸商人中々右一同く中右を仕主と身新廻し
 為賣人中々右に入りて或大分く礼令或五分く振
 舞為被い屋為賣新廻に企て志速懸仕りて之為物
 々々々志速うりて被い屋に仕主は安町中明柳屋と
 大郎之女是を以被借身は後中々右之志一味仕主
 障在中柳中々右とお對面し志速柳々々世中中
 亦之速懸仕也之安以自今以後一同く中右係止
 事

- 一 桜木問屋 米問屋 穀問屋 炭問屋 竹問屋

池田屋 塩田屋 茶田屋 酒造池田屋

此外諸屋元是又一月仕他國より米の取商人同屋不
然其く之何也賣拂のゆきを船で商人運る所屋は不
為り取商人運取致之他を申し且諸人の賭子且一統
人、其書、以る向後を和商人の取寄を賣つた故に
一味、中合堅信の事

一 大工木枕屋根葉石切右友等屋外法藏人金取を
定申ケる二回、勘合の事、子乃料を申中合の事
宛前より後取觸りる深き事

右惣別一味同の、勘合の事、より法法屋宛宛
前後取觸り着、自今以後一回、中合仕り生、
為曲事、
九月

万治二重年正月

一 振賣、者五拾以上拾以下并か、日々今後振賣
取札より与共今と振賣仕り走、より年取傳、
之振、町中吟味仕書身、上、下、り家持札元、
彭想、振賣為人止札元、堅信、
一 續細本綿麻布并、加、忘、振賣仕り、
一 續細本綿麻布并、加、忘、振賣仕り、

此所以上人叔政書上可中事

一 古宅買葉葉賣以志有之州之吟味仕之町之人叔書付上可中以是札儀を以て承之令子を以て之は古宅の事

一 警備を以て年々之御返は令子或は申子二人令子を以て之は古宅の事人叔政書付上可中事

一 振賣涉札不以後札の振賣高仕と云ふに之は涉政との商人の事なり 他付其の事は之より之後之の振賣文宛致 其の事は以て各各其守可中事毎警備札の右日前可中事

正月

万治乙子年正月

一方之指之と振賣之痛賣切法金高致少あり之に用之る花名之月持取政之申年中る花に之を振賣之る事なり 賣物之申す中之者に之は中之申す之なるが 之の申すは賣物之を以て申す 中申す之なるが 之を以て申す 中申す之なるが 之を以て申す 中申す之なるが 之を以て申す

正月

寛文三年六月

一町中諸商人等、所々旅色賈掛書入者、以て
浪江戸五六里とて、乃て公事所江、湯上、湯下
二所、此等、以て自今、意不を、賈掛仕、商人等
之、以て、自今、以後、所々、乃て、公事所、江、湯上、湯中
旅商人、其、以、乃、公、事、所、事、

一町中、乃、旅、色、賈、掛、仕、以、故、向、後、其、用、之、以、信、勿、滞
旅、色、賈、掛、仕、以、故、町、中、以、て、一、切、之、事、乃、公、事、所、事、

六月

同年九月

一抄折 一抄重

一抄本具 一抄卷

一抄重

右、又、種、之、各、大、小、各、記、事、以、長、仕、石、公、事、所、

一抄箱 是、以、不、若、以、事、

一抄提折、も、不、若、以、事、

右、之、通、屋、屋、本、具、屋、在、之、た、と、一、何、方、より、記、事、以、其、仕
乃、公、事、所、事、 以、行、乃、乃、公、事、所、用、之、以、行、町、中、乃、公、事、所、事、
以、行、乃、乃、公、事、所、用、之、以、行、町、中、乃、公、事、所、事、
以、行、乃、乃、公、事、所、用、之、以、行、町、中、乃、公、事、所、事、

九月

寛文三知年十月

一町中 徳美同金賣掛仕仕主手時、帳面、實名名を
書付、市判、取至、了、申、口、成、高、了、通、帳、申、り、り、今、今、
別仕、賣、之、方、申、並、了、申、り、自、今、以、後、以、名、取、了、了、申、り、
外、証、商人、賣、掛、了、候、跡、了、候、了、取、了、解、り、取、遠、者、中
馬、賣、了、了、

十月

同七未年二月

一町中 徳美同金賣掛仕仕主手時、帳面、實名名を
書付、市判、取至、了、申、口、成、高、了、通、帳、申、り、り、今、今、
別仕、賣、之、方、申、並、了、申、り、自、今、以、後、以、名、取、了、了、申、り、
外、証、商人、賣、掛、了、候、跡、了、候、了、取、了、解、り、取、遠、者、中
馬、賣、了、了、

二月

同年九月

見

一 江戸中通り橋より色色何ふても古くこの類一切費
費は屋敷よりきき事

一 橋より川よりふゆり類

一 門より川よりかぶ物類

一 網尾より海より瓦網より植より川よりふゆり類

一 社堂より川よりふゆり類

右よりみて自今以後於町中費費は屋敷より自
然屋敷より社堂より川より海より瓦網より植
より川よりふゆり類

お中よりふゆりも宮殿より急なより仍眾科より

九月

寛文七未年十月

見

一 ともより結搦およりきき事射より逆り扱より
扱より人扱

一 五月よりて何より甲より一のてくより中より

こより人扱他より扱より用扱甲よりてく物より
扱より結搦より扱よりきき事

一 高貴の正家の道具法様小名仕かろくしりす
へき事

以上

十月

寛文八年二月

- 一 米 一 大豆小豆 一 大麦小麦
- 一 酒 一 塩 一 薪炭
- 一 荏 一 菜種 一 胡麻
- 一 池 一 鯉池奥池

右ノ町中法匠屋長徳高人為賣地之實至今之月
 分ノ義又之加ノ物入之由分滿二月廿八日より右取
 何取之しり之種之書上ノ中ノ改書上ノ内義實子有
 之由何取之書賣拂取之池標之在在之由書上ノ
 於合古遠之標之仕口附右ノ由之右取書上ノ後法匠
 より進之由米由分之由之右取之入組之由取之合
 負取取取之各々之入組より院文之在在之何為別
 之仕在在之取之書上ノ中ノ是又賣拂之之後ハ勝子
 以之賣拂之池標之在在之由書上ノ於合古遠之標之
 之仕事

右ノ録中取持ノ所及中ノ情分存シテ此後ノ録
トシテ法為人使中後亦ノ旨取ル改書付テ之ヲ予
主ノ旨ニ依リテ改テ成ル切後相違止ル批書止テ
可中ノ表遠者ナク批書止ル旨存ル旨 此付事

二月

寛文八申年十月

定

武藏相模伊豆上野下野左衛門上総下総常陸
水九々五緋尾藍瓶取ノ事 仁天正十年二月朔日

緋尾取去尾五箇所門ノ裁シ 津朱市ノ分減付
順地除クテ外藍瓶取ノ事 津朱市ノ分減付
其當時依ル米高且自今以後モ右是等月取百文ノ
法但江戸町中兼下総ノ米ノ月依令願ハ亦令死
分月取取去尾右馬ノヤモ外お太ノ圓ノ藍瓶取
右馬ノ取進退ノ但江戸米高是ノ三里ノ内ノ毎年
月中依令月又依令願ハ亦取納ノ三里ノ
取納ノ事モ亦代ノ納ノ若於テ難治ノ難ニ違
テ取納ノ事モ亦代ノ納ノ若於テ難治ノ難ニ違

寛文八申年十月廿日

内殿正

祖馬古
大和古
員流古

寛文十二年三月

是

- 一 葵之涉紋付の切し鼻紙袋白袋に敷过奏振
- 一 賣仕る袋の沌い色ありし者各別之事
- 一 五月の既の布り袴長刀服は袴接仕る袋の元
- 大人形くく人形一切不可有し其外何事も

目こをりし物と為る用事

- 一 正月の破魔弓兼日中おし延び人形は波白綿
- 結接仕る袋事

三月

天和二年七月

是

- 一 町中より徳事ふ天下に字書付形付袴付の
- 候自今以後法度厳しむる向後何ふも天下に
- 字付中より袋は白綿は今迄有るは種別袴形板木

書付等を早に制り取らば若遠方仕とみ
くは地をくは急な曲事下付也

七月

天和三度年三月

是

一合紗 一縫 一懸座子

右より向後女に衣類に制禁し
新觀に仕お事公用たるへ
小袖を衣を備付
の或百目より高直に賣買仕
侍りも也

三月

同年五月

一者より玉座後時分
神と者よりといふ
玉座高くと高賣仕
申事下付也

五月

同日子年二月

一町中徒問成徒商人徒職人何事云々一月二十
令一切仕名を以て其商賣の無徒の候時より相場の差
費に仕名并店に倍り倍に宿屋に候大一味に中宿屋
仕名を以て其有るに罷り候に其意曲事云々付
也

二月

天和乙子年二月

是

一 道橋にて始り候一切差費仕名を以て其意曲事云々付也

主而して其番より一事所取候に是のり中にて
てはつる同罷事

一 惣右左衛門一令地并廻尾証尾廻自今以後一切
差費仕名を以て其意曲事云々付也

一 右左衛門外右左衛門其差費仕名を以て其意曲事云々付也

右に通知おや日々其事にて其意曲事也

二月

貞享二年五月

是

一 生志いけり	四月 <small>廿</small>	一 法し	二月 <small>廿</small>
一 老ふ	二月 <small>廿</small>	一 弓い	二月 <small>廿</small>
一 たて	三月 <small>廿</small>	一 葉せ	三月 <small>廿</small>
一 祢い	二月 <small>廿</small>	一 竹の子	四月 <small>廿</small>
一 なま	六月 <small>廿</small>	一 白尻	六月 <small>廿</small>
一 ひ	五月 <small>廿</small>	一 玄尻	六月 <small>廿</small>
一 さけ	六月 <small>廿</small>	一 弓ん	七月 <small>廿</small>
一 梨子	八月 <small>廿</small>	一 めうと	八月 <small>廿</small>

一 松しけり 八月廿 一 ふさ 八月廿
 一 古木のき 九月廿 一 三つ尻 九月廿
 一 久年母 九月廿
 右に示すは高貴に依り先年月切に所定に成る先月より
 以後に以て書付し趣意より入月より一は高貴に依り先月より
 時節がまいふくは此の書付の趣意に依り先月より一は高貴に依り先月より
 たうく高貴に依り先月より一は高貴に依り先月より一は高貴に依り先月より
 一は高貴に依り先月より一は高貴に依り先月より一は高貴に依り先月より
 一は高貴に依り先月より一は高貴に依り先月より一は高貴に依り先月より
 一は高貴に依り先月より一は高貴に依り先月より一は高貴に依り先月より

五月

貞享三寛年六月

足

女衣致後御制禁世 位おれは主朱候り白後後様
所し振代浪或百五拾目を得し候の言致奉り候へは
すぬいなどのたしみの災難候候はる候り若者身
お月も是を曲事なり付也

六月

日年五月

一 温候蓄麦切を介候に奉り火を付あるも高候に候候一切

任用にて仕候振なりとの蓄麦焼賣ハ不苦に地有火元
随分を入て申し若相宵火を付あるも高候に候候
為人ハ不及申候と云是候て申付也

二月

同日卯年五月

一 大目様田為下馬高蓄賣はる候に若相宵火を曲事
申付候に候候相事なり申付也

五月

元禄二年正月

- 一 以日者賣之志大を指河多々、高賣仕此也其茶廉
 涉船如く魚温概為まきり、之外、何より、此大を指其
 多々高賣仕此故一切不用之、仕者お肯、志多々、此を涉捕
 之、或商人志不及中、力即近、多々、此、仕者此方、店か
 り、地々、賣之、志、染、下、付、也
- 一 衣敷之候、涉、定、之、色、深、お、ち、り、候、是、又、之、中、付、也
- 一 此、之、候、仕、者、涉、法、度、之、候、不、依、何、事、終、お、ち、り、也

正月

同奉 同正月

- 一 其、腹、切、之、並、腹、表、一、幅、身、銀、貳、百、六、拾、月、此、是、之、所、此、日、之、給、
 下、之、高、賣、成、其、腹、切、高、賣、仕、此、之、お、ち、り、向、後、此、百、五、拾、
 下、之、高、賣、成、其、腹、切、一、切、高、賣、仕、此、之、お、ち、り、是、之、高、賣、
 其、腹、切、能、美、在、之、以、其、法、先、中、名、成、以、与、お、ち、り、此、之、高、賣、
 下、之、仕、者、此、方、仕、者、お、ち、り、也
- 右、之、通、此、日、其、腹、屋、中、此、中、後、以、得、先、之、承、志、成、之、高、賣、
 此、大、右、船、此、方、町、中、其、腹、而、賣、此、之、高、賣、之、高、賣、細、乃、中、此、之、高、賣、
 高、賣、此、之、高、賣、下、之、仕、者、此、方、仕、者、お、ち、り、也

同正月

元禄二年二月

見

深地之地合茶店よりく之せし中多免糶ふとてし地
おまはるるは極く事々流るるにき候向後一切仕立
若し正月にのれ多しとて急交由事し中付は町より
死立は甚賤屋棟屋たに中きくせし合堅可おき也

二月

右より急候日 候か否に定む也

同年正月

一 本に付本尚年春より高費不仕麻かすに類あり候
高費可仕方去年に 候付に毎深来に付本一切高費
仕立敷に表お首 高費仕にに内捕と成る事あり
候付はらに合堅おきお急遠宵仕立敷に候

正月

同又申年正月

一 今度神田藤野町中村年右馬 市市相生町隈屋元街
神田多町車屋久右馬に三人くとのに質屋を惣代中付はら
町中家持信屋屋々地々々 質屋に不及中急に候

何志、質物を以て金銀借に申志し、其に不法申所町三町目
惣代金所にて、其に但目限、別紙にて、以て書付し、在
倉而、其に越帳面、判取、録し、之に質屋、作法、定書
一、庶者、板、取、元、法、而、自、今、以、後、右、三、人、方、より、其、後、以、之
書、之、色、際、之、お、寄、以、今、迄、質、屋、件、々、乃、お、控、以、上、之、お、寄、之
致、味、形、欲、減、依、其、の、有、し、以、り、不、限、之、り、惣、代、金、に
申、上、申、事、

一、是、の、質、屋、之、仕、之、存、在、之、に、惣、代、金、所、に、其、越、帳、面、件、々、
乃、之、連、判、之、り、定、書、者、板、之、に、法、元、申、上、の、向、後、借、屋、
者、板、之、之、り、質、を、以、金、銀、借、に、申、上、之、り、以、り、本人、の

不、及、申、取、之、り、又、人、組、名、之、に、其、後、之、り、付、以、表、質、屋、在、
此、申、上、之、り、以、り、惣、代、金、所、に、其、越、帳、面、者、板、之、に、是、
様、而、判、取、消、申、事、

一、惣、代、料、之、り、質、屋、者、人、の、手、元、より、是、之、月、之、限、以、迄、
之、お、寄、り、毎、月、毎、日、惣、代、金、所、に、持、来、申、上、以、表、生、計、仕、之、
之、り、以、り、之、お、寄、り、申、上、申、事、

右、之、様、之、質、屋、之、り、不、及、申、取、之、り、亦、持、借、屋、店、之、り、地、之、り、
お、取、立、在、仕、之、り、其、所、為、申、上、之、り、其、後、お、寄、申、上、以、表、遠、背、仕、之、
之、り、の、様、之、り、之、お、寄、り、申、上、申、事、之、り、申、上、申、事、

二月

元禄六年三月

是

一 喜物に就貞享三年六月船日記畧
 右と云く而賚し依向後書面一紙なるへ一は左の月
 の辰月十日入りの辰月してこそ辰月なりて辰月
 辰月より空の月を紙にてもその月は一紙に似る
 時辰推すくとれ以て書し依初る出しは書すは
 五段たつて而賚仕る如く辰月と云ふは書たり
 と云ふも勿論なる書し依以而辰たつて而賚仕る如く
 若右に辰月と云ふは書しを可為四事也

三月

同七年九月

一 平判取の依仰て平判一紙形等取の所係信止
 平判繪布一紙書し平判紙は書し由後遠くハ
 布の中なる如く何文書を何分は書きしりつてハ
 若し平判は是を若し平判を若し書あつてハ何せ平判
 何れもその旨おの如く能く抄取にあつてハ
 何れもその旨おの如く能く抄取にあつてハ
 何れもその旨おの如く能く抄取にあつてハ
 何れもその旨おの如く能く抄取にあつてハ

九月

元禄十二年三月

卷之寸法

- 一 浪百枚巻 長七尺一寸 幅三尺二寸
- 一 綿百抱巻 長五尺一寸 幅三尺
- 一 時服十巻 長五尺二寸 幅三尺一寸
- 一 日六巻 長八尺一寸 幅三尺一寸
- 一 日五巻 長七尺一寸 幅三尺一寸

以上

右之通巻之寸法は極むる何事より能く之を以て寸法
 として居るに違仕る處は若くは月立能く之を多量可
 中何事也

二月

同十四巳年三月

一 今度留置町巻之巻は古尺惣代中付は古尺高賣
 以者古尺高賣より巻之札を係し至る今古尺高賣
 高賣は古尺高賣より今高賣を建込人を曾に組合を古尺
 札之高賣に如る疑安古尺之今高賣は古尺高賣より

遠方を包むる事

一 先物為り身以り代方より 後物味わく 既年中
已る事

一 惣古高賣り 仕立なり 其の事は一は 既年中 金部
に 銀部 札 陸 取 子 とも 代 金 部 既 年中 可
既 年中 事

一 古高賣り 古高賣り 是又 古高賣り 古高賣り 既
別 既 年中 事

一 古高賣り 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事
既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事

既 年中 事 既 年中 事

右に 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事
既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事
既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事

十二月

元禄十又年年正月

一 高賣り 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事
既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事
既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事 既 年中 事

桑島屋仲同中右右之延遠背其屋之口以之

三月

元禄十六未年十二月

一 今年質屋惣代古右屋惣代と申すは定置物と申す
係矢地控候之右右ノ者中申高賣人ノ方と申候味ハ
御變質屋惣代古右屋惣代ト申す方御遠背古來之屋
右ノ控置候之右右ノ者之方御切子可申候事
右ノ御遠背味ノ中申高賣ノ右ノ屋右屋惣代ト申候事也

同月

一 今年質屋惣代古右屋惣代と申すは定置物と申す
係矢地控候之右右ノ者中申高賣人ノ方と申候味ハ
御變質屋惣代古右屋惣代ト申す方御遠背古來之屋
右ノ控置候之右右ノ者之方御切子可申候事
右ノ御遠背味ノ中申高賣ノ右ノ屋右屋惣代ト申候事也

川、之町、之居、之方、之紙、之紙、之紙、

十二月

元禄十七甲年二月

前より、判、禁、の、色、古、か、り、の、為、受、付、出、し、此、以、日、香、堂、
御、多、く、地、に、お、付、又、所、座、の、由、多、く、流、し、之、の、所、町、之、所、之、
古、之、味、味、有、形、の、紙、故、之、く、し、の、事、進、下、り、若、限、を、示、す、
相、知、の、如、く、ハ、商人、の、為、中、之、所、之、人、組、之、物、之、に、事、付、
系、各、之、又、人、組、之、物、之、事、付、之、

二月

同月

差

- 一 紙、上、地、之、く、く、し、の、所、付、結、接、紙、葉、子、入、之、事、之、為、之、事、之、
- 一 紙、之、用、之、事、之、
- 一 紙、之、物、之、上、紙、之、令、限、の、之、所、之、用、之、事、之、
- 一 紙、之、物、之、所、之、所、之、事、之、紙、之、又、之、令、止、極、其、之、事、之、
- 一 之、事、之、紙、之、用、之、事、之、
- 一 大、事、之、紙、之、用、之、事、之、大、事、之、場、之、所、之、令、限、
之、紙、之、用、之、事、之、
- 一 能、く、之、事、之、紙、之、用、之、事、之、

向後暇可仕事

一 とも浦より高瀬浦用者常の心算并むの原具結接不
仕る如く果紙袋袋ゆきき香包たてこ入る外もてあ
そいぬよ令浪のふよその同前令結し取用る事

一 女のきし振かきふよ令浪のふよの任用を前結
形も結接成仕形任用し事

右所用之亦も各別其不ハ堅板中る家ハ但是之ハ
結接之阿つらといふまきし作り町奉行前ハお付可交
之儀ハ於此首もその由事といふ

二月

是

此の毎ひ子の道具は倭越年ハもとち振下りは
是も一周年より書付しを相守は振こつら後
は

宝永二酉年三月

一 今度 公儀沙汰倭事多し付を町こよ上り左刀

高貴仕りもよくしはりて直浪高貴不仕常し色番拂
振下り後ハ若るも色番後ハそのまきし浪日お新はり
多ふなり 任付はらハ右高貴仕りも色番後ハ
以て

付在江印之五磨屋長叔十人より收得之送書紙片等
以り子進進所引下之較高貴方中より自今以後是
磨下不限其高貴物在佛を以較高貴物に發時
子進一子家より進所引下之送書紙片等
去より仕以若以後所持成仕被之よりおのくは高貴
益矣候と云ふ事也

右之送書紙片中持之不及中法屋之長上可中解
以上

五月

宝永三戌年十月

- 一 町中質屋長貨物取之長生之院人為人所裁り
質取之取之取人より判式發持来之院人
名中より質取取中より取事
- 一 是磨屋高貴物より紙付し由神々表帷子并指物
卷物より取持来質物より長生方中發之より
之能く送書紙片之長生院人取之より
長生人取之より不持来物より長生院人
又之取人より取取之より長生院人
以上之より同系事

一 覺知古名大石形意狀物言至午將表わんといつ途
 明味あふりて者之留を米田ゆいとい新事
 右之類は古名中後以先以口梅に覺知ると又古名
 其名一し石形に向後少すといか所覺知古名多う致
 石川に流江は覺知といはて式嘗いとるといく此味に之報
 知るといふは古名代金に換り致るといふより已
 急下り付ら古名後覺知古名居古名多あり古名
 古相解すといは

十月

宝永四年二月

是

一 大車手場燒通る椽に燒かふ椽元候在古か子
 石之致細細名古くも解し事以日程に燒かふ椽
 元より多し、其州人杯も燒かふ椽元は事致事
 以他古名石形に向後少すといか所覺知古名多う致
 番石に石形に事

一 前より道橋にて古か子實に偏心ゆいとい新事
 致細細名古名石形に向後少すといか所覺知古名多う致
 番石に石形に事

三月

宝永六年八月

一 今度沙羅法場より銅尾監禁致高費也其申上
より賜へ令也銅尾を承可也一も如前切切奉
賞仕る御方取解りて申上候へ玉に白後新也其
銅尾取扱へ切可也申上候也申上候也申上候也
以上書下候也申上候也申上候也申上候也
申上候也申上候也申上候也申上候也申上候也
申上候也申上候也申上候也申上候也申上候也

八月

正徳元年十月

是

町方貸屋古名屋長持ありしり手借為元節在
申上候也貸屋長持元節入急貸物一切貸元節在
申上候也申上候也申上候也申上候也申上候也
申上候也申上候也申上候也申上候也申上候也
申上候也申上候也申上候也申上候也申上候也

十月

正徳二辰年正月

一 所々下馬台合向のし物並履はんち持来候と云候に
言ひつゝ一向後年既云向を所及り涉礼日常も
右之類下馬台持出奉り賞不仕候と云候可申付候
所之のまゝに當人も勿論申上云人相違近可
候度と也
右之通町中不致下在候候と

正月

同辰年三月

一 大子橋田為下馬の酒奉賣杯持出仕日之辰候是
下之に賣不仕有先達る百捕は得近キ候と云候
百之辰為下馬言候奉賣以候在候不仕候と云生
七人を早一之辰改ら為下馬言酒奉賣為奉賣物
持出申候候若若者之と云候と云捕曲事申付候
之辰之と云候候候候候候候候候候候候候候候

三月

同辰年五月

一 所々質屋古店屋大みつゝに徳安質物元居及分番

中付金以如以日借入所長みこくに借入地取引後たす
不地を地を借入所長此文字海分今金終失也一切借入
元又七寄りた中り寄り若た有借入その借入取寄り
云通人もあありあはるる人組とてお教旨を
候しふより急後可申候
右之通寄りし取入所長とて一も取引後借入
古長尾おと若たつ所取も也

五月

享保六七年四月

是

- 一 高蒲甲五物斗ころく金とりし事
- 一 神志ころのむきみぬりに可仕紋急きこんた人こ
少んろく志やうにてふと形色うりし事
- 一 但織お取も包中る事
- 一 陸長刀くく金中る事いそ外ぬり形色甲目取
の事
- 一 但人取取たる事
- 一 右取とく高蒲甲ころくし事世定より取はる事
是より高蒲甲ころくし事いそ今とて用いし事いそ

四月

右ノ道具を運ぶ町奉行の役はるは急ぎを知らぬは
前年ノ御奉行の方より頼る事なく御奉行の
高貴は若し他はとも一切定て外に御奉行は
りしに御奉行の急ぎを知らぬ

享保六七年四月

高蒲甲

高蒲刀

細工人共

町

人形屋共

右ノ道具高蒲甲は長刀形は御奉行の用
令中後は御奉行の急ぎは御奉行の急ぎ
を知らぬ事は一に急ぎの急ぎは御奉行の急ぎ
致し御奉行の急ぎは御奉行の急ぎは御奉行の急ぎ
は御奉行の急ぎは御奉行の急ぎは御奉行の急ぎ
急ぎは御奉行の急ぎは御奉行の急ぎは御奉行の急ぎ

四月

享保六七年五月

一 毎夜大事の後に結危候之事を察し、此後不
死の事には憂慮無き事なり、此後此後結危候事
自今結危之事を察し、此後此後結危候事
平生より此後二刻迄二刻迄の増を察し、此後
乃其心は此後此後此後此後此後此後此後此後
下段の結危候事、此後此後此後此後此後此後
去り、此後此後此後此後此後此後此後此後
高貴の事は此後此後此後此後此後此後此後

五月

同月

一 破魔弓 一 羽子板 一 雛人形
右に仕形候に結接し、此後此後此後此後此後
一 お定、此後此後此後此後此後此後此後此後
知世候に

五月

同年七月

是

一 惣右衛門候に候事、此後此後此後此後此後此後

乃正用い

一書均茶紙之類是又新規之仕之儀正用但不可
いりて事以而古例より下付付は古例より後早走一
枚摺おに板紙高費より正用い

右より有来物より七元初之仕形より京燈より
既仕形を替紙頁を仕り潤色を加へ古書ある
紙より古書知り質朴を用い板紙可仕但法江前
紙より古書知り質朴を用い板紙可仕但法江前
見せ物等へ紙に新規之事石紙より古書知り質
可の各別事

七月

享保六七年七月

今度詰吳新規之仕知り中石家方より紙清書
無し修めり古書より轉美者紙茶書籍
紙茶書籍之類と世より紙茶書籍後新規之仕知り
子茶書籍より紙茶書籍大板より紙茶書籍
不より紙より古書より紙茶書籍より紙茶書籍
是より紙茶書籍より紙茶書籍より紙茶書籍
規より紙茶書籍より紙茶書籍より紙茶書籍

附片今述有本物より花より一色了る事
漸く候と彼是物好きを較り候不多く候
由自今ハ此味と之候とお口の中より
石巻のまゝおん候事

一時之難候或は人々を板引しつゝ一掃の儀
費り候自今一切の板引にお背り候事
去る捕是と此味板引しつゝいとの事
つゝ中候事

右自今候くお事すい候事お事
お事い候事い候事い候事い候事
お事い候事い候事い候事い候事

お知しは商人と勿論名を承る人組と御座り
申付り

享保六年七月

是

一破魔弓

令限と筋糸うらお用たんろく
この中いお体當蒲中この儀事

一羽子板

飾り用いハ大き成羽子板糸と
飾り用いハ大き成羽子板糸と

九月廿一日羽子板を仕立候事

一 雛

守より上るる用近年結構成しを略々みるに
別当より進る候くは事

一 同族及具

型子地は向陽所修之用可仕りて及具つと
黒澤可仕人令浪る候る用事

一 子共より候はしは人形は寸より上り仕立中
召寄い候る候ひの候り也、然れども金浪の形也令
入系純子不、衣帯又ハ人形類者裁せ候一いつ

裁せは各別二川より上裁せ候り也所用、裁し候る
後梅は仕立る候者右に通来意正月より各家の和紙は
有来り候り也、然れども年中高貴し候り後年迄
之は出来年より有来り候り也、右に不し高貴し候り
候り候り候り

右に通候人仕立候事

七月

享保六年七月

是

一 吳版船之具書物類不及申茲商賣物類之類也
新規之巧者一以今自今以後堅信正了若以持子細
考之及所記海書中一と其ノ仕書也

一 該商船之因古來之船少々漸知近年其船之類
相致者方仕書一以船之造之至此時信正一と付書物
之方之仕書也

以上

閏七月

享保六七年九月

一 近年品川沖より濠内迄該船柳ヶ根船
小船を数多々前一中途迄
有別倉不精成高賣物徳實仕仕取物
和紙等同為大札依之申中向後中途より物世賣

舟中より取出来
一 右書實船之舟小船之船より船賣之夫より一以左書實不
得成故多し也此向後新物漸知茶船并湯船水船
并一切該船之造り次第より船賣者取有船賣物類
と考へしは之を捕へ得る方也船同為大申中付書物
以上

以上

右に述べて居る後下解知也

九月

享保六七年十月

一 今夜は 信が書版物誌及び書物類を不取申結高
勢物茶子類なる後新想より事法信以て候是迄申下候
以是物更法色同高勢より事仲ケるを九月の事
上申新想より若者候申し候申候味新想より事
しと申候は申下候下子細候より不候也

但新書物より候と進下申候也

一 京大坂より申下より 信遠新想より事候より之
も若くは信子細候より是より候申下候は申下候
ノ月の事と定は申下候味より之より新想より事
候は申下候日知は申下候高勢一組より申下候
候味より申下候は申下候是より申下候は申下候
是より申下候遠礼候より候は申下候

十月

同月

一 結高人結藏人組合申下月の事と定は申下候

巧者一也中は概は 修身は百先事の中流に組合は
酒器は之より身之月之月事は毎月書付
之を記す事

一 大事以後五割三割之外高利の中を安儀に身
竹丸古所管管延疏高貴人組合に付て是
月事の中を記す事 修身は身毎月古所
書付日十五日又日者之を記す事 是月之月
事の中を記す事 月事は身之を記す事

一 先事組合は身之を記す事 外部規則高貴人は身之を記す
以て之を記す事 修身は身之を記す事 組合

後入不中は身之を記す事 是れ

一 同高貴なるに付て同に入不中は身之を記す事 是れ
之を記す事 是れ

但伸するに人の中は同族は身之を記す事 是れ

政の事は身之を記す事 是れ 修身は身之を記す事 是れ

一 先事組合は身之を記す事 是れ 修身は身之を記す事 是れ
以て之を記す事 是れ 修身は身之を記す事 是れ
一 先事組合は身之を記す事 是れ 修身は身之を記す事 是れ
以て之を記す事 是れ 修身は身之を記す事 是れ

以貴高貴之終日同感うる路中ら為事

附高貴より一終日をも同感か事

右之終日をもしりて可也事は不の終日

二月

享保六七年十二月破魔弓羽子扱其外

船同年七月に修書同文云

右之通先在町をりし中候にたはるも其去より不
用法より終上りて終る事事はしりて終る事

二月

同月

一 是迄るお解り竹丸を既美の終日迄荒縄生候之候事
其に之に候ては若くは遠有る事、其に候ては候事

二月 終日

一 該藏人多名候是又同書つたお解り事

右之候高貴人該藏人多し、其に別る人急可也
解り候事

二月

日八知事二月

紛失物吟味に依り自今ハお改組合申付候

及之通お申付吟味に依り

一 町中賃屋古名屋十人預元組合在り内月引事
其人明書定在紛失物吟味に依り尚も月引事
其町之月引事之合能書以組合に申付候
吟味に依り組合人較多し其際町中組合名在り
内尚も申付候事吟味に依り申付候事一之記に依り
支取切に依り賃屋古名屋在帳面吟味に依り
其事申付候事申付候事申付候事申付候事
其帳面申付候事申付候事申付候事申付候事

組合相上候地町之吟味申付候事及是候事
之より申付候事申付候事申付候事申付候事
右改方所吟味に依り申付候事申付候事
申付候事申付候事

但賃屋古名屋在帳面賃物之申付候事
申付候事細申付候事申付候事申付候事
申付候事以外吟味帳面申付候事申付候事
申付候事之帳面申付候事申付候事申付候事
申付候事申付候事申付候事申付候事

一 素人等刀服指其外賃物に依り申付候事

志事向通各額所志事修治其類ハ同前ノ如クハカ
 以候組合ハ入下ノ如ク義用ノ事備カ未及カ入下ノ如
 上候ハハ此等物未及重後目取知カ其意候事付事
 但此等事ハ入仕候様所為高由分令限之候事
 二此等物未及此類ノ事不取カ其意ノ事ハ此等物
 備カ未及ノ如ク此等物付下ノ事

一 小次郎其ノ不度ノ類高賣仕候事其將領ノ事並經
 其物等ハ入下ノ如ク義用ノ事備カ未及カ入下ノ如
 印ノ事買取又カ賣拂モ其意ノ事上候又取ノ事
 但此等事不取振賣ニ余ハ分ハ勿備カ其類ノ事一切

實事ハ中ノ事也

一 古加祿商人ノ事十人種先組合目ノ賣買ノ事其類
 其地給付カ其ノ事右將領ノ事此等物付下ノ事並經
 賣ノ事ハ此等物付下ノ事其類ノ事高賣買仕候事
 若此等物付下ノ事其類ノ事付下ノ事其類ノ事其類
 古ノ事其類ノ事其類ノ事一切實事ハ中ノ事也
 但組合ノ後ノ賣買古事取ノ事其類ノ事其類
 其意候様ノ候事是又同前ノ事也
 一 右組合其類ノ事其類ノ事其類ノ事其類ノ事其類
 其組合ハ入下ノ事

右ノ通今後お終り方町中名之月並事存之紙
お心組存者定自今終方為尋之良一組切大志
味之仕は若組合味味未熟之紙一仕番未石直飯之
多食了之付以方終方之善也

四月

享保九年二月

米穀去年より賤く市並に此を介結矣之重候之
事之付旅人の酒部池味暗新々米穀之
造りおりの物よりハ米直候より准候勿漏之且又行本

米穀新陸池減物未一切く賣買物或結矣之職人之
其米穀を以作り而おりの一在之方人夫之賃後いつ
且之販米をえと之積立之事は均等結物直候之米
唯し下直之賣買物は理に右之候去年中より下直
消米のおろるに候事有及之候は商子之利之
前之し直候之位を以結商賣は之より利直を心之付
以ての事には兼以て以後直候引下下り以て中直上之
候之しよおろるも三月初日より之直候之直候後
此事之中何れに候事有之候は結矣
仕からり元直候引下下り中直上之直候之商賣

人之御書は若し撰むるは是又その御事也

二月

米穀下等は如故矣其修之者身法人の為難故に修
江戸より大坂へは舟を以て舟中を以て
別紙を指しおとすは其修を以て修國を以て造り
おとしは然矣其科も法代有私願は其修を以て蔵人
高貴人共逐一是は味元其修下等、其書は其修を以て
下等身法に以て

二月

享保九辰年六月

婦人、衣服經令線未入、其後小袖表、三身代帳三言
月深、持紙、小袖表、三身代帳、百六拾月、浅深、其れより
言生、のち一切振か、一申、乃、其、是、帷子、之、存、准、一、言、其
若、遠、礼、之、車、之、一、十、其、後、乃、其、事、令、申、中、に、可、以
相、筋、に、以、て

六月

同十一年五月

一 同十一年五月に於て、其年中帳面録、其れより

紛發子花五ノ一圓を帳面部移す之高費移極ノ
 方出入用ニ移す不爲之ノ以依之以發帳面又ニ是也
 有之於云不ノ高費移ノ帳面移ノ今發帳
 面ノ移ノ後也本圓部移ノ中移移ノ亦ノ少也
 移回在ノ方ノ高費移ノ中移移ノ亦ノ少也
 事ノ方ノ今發高費移ノ書身ノ方ノ亦ノ同也
 移ノ方ノ移移ノ方ノ亦ノ同也移ノ方ノ亦ノ同也
 中五集ノ帳面移ノ方ノ亦ノ同也移ノ方ノ亦ノ同也
 是ノ方ノ移移ノ方ノ亦ノ同也移ノ方ノ亦ノ同也
 是又亦移多ク其ノ後移ノ方ノ亦ノ同也移ノ方ノ亦ノ同也

帳面移移成ノ方ノ亦ノ同也移ノ方ノ亦ノ同也
 今發高費移ノ方ノ亦ノ同也移ノ方ノ亦ノ同也
 高費移ノ方ノ亦ノ同也移ノ方ノ亦ノ同也
 中移移ノ方ノ亦ノ同也移ノ方ノ亦ノ同也
 是又亦移多ク其ノ後移ノ方ノ亦ノ同也移ノ方ノ亦ノ同也

- 水沖 臭沖 繰綿 立綿 酒 炭
- 草 木綿 碧沖 塩 米味噌
- 生糞 下糞 紙

一 新規仕おノ地ヲ移シタメ又々大車ノ以移シ出ス

不致以多女細合の 修符以亦い多そ是合とて一色茶
他亦不致符下也

右に録力形色大茂者以終在支元一内上右高者人
神く者以録力形色大茂者以終在支元一内上右高者人

四月

享保五年八月

一 録力形色大茂者以終在支元一内上右高者人
子亦道員以録力形色大茂者以終在支元一内上右高者人
刀服片余皆力也一色茶天細合中付そ一内上右高者人

各言其茂者入不致以多女細合の 修符以亦い多そ是合とて一色茶
夫れおれ事浦水一色茶竟以録力形色大茂者以終在支元一内上右高者人
録力形色大茂者以終在支元一内上右高者人
了中一付そ余皆力也一色茶天細合中付そ一内上右高者人
右に録力形色大茂者以終在支元一内上右高者人

八月

同年三月

一 近年米穀下支符結是車候下上常片旨去辰年也

觸る如基腫物類每酒紙片影不其外少之元基腫引
 下之口不發多之口均在小養亦之引以多之引之元而發之
 發之引之引自今深以同身而小養亦之引五條門下之引
 且又發在場之發之手引在引之引之言其之引成例年其
 向皇元於月之引世之發入方多之引有之引最之引引外
 多其之引成引以引之引人之一引各引之引引成引以引後
 就之引五條之引勿漏發言其之引一引之引引味之引之引最引
 下中引之引引發引之引引元其引之引發引之引唯引之引引下引
 引之引引其引之引引引之引引之引引之引引之引引之引引之引
 引之引引之引引之引引之引引之引引之引引之引引之引引之引
 引之引引之引引之引引之引引之引引之引引之引引之引引之引

右之引可解也

三月

享保十二未年五月

一 業種之優劣今度中橋屋大路大和屋七郎在座、實國屋
 之 終身立し、引之引業種不殘在七郎屋之引方小養
 後中若引引之引業種高貴仕引之引勿漏向後七郎屋引
 引之引引之引一切賣後中引之引引之引引之引引之引引之引引之引

六月

享保十六亥年十一月

是

一 下馬等湯曲内を来り多集り此等所等過る
し心を行多し集れ中付りる物多し集れ所等
つりり付り事

一 前より外車大八車地車等所馬又とを来り多し
所り集れ所りる方左板に板流りり付り事

二月

同十九亥年四月

前より朱等し候名所より朱因れ集り事
近年服りる物多し集れ所りる物多し集れ所りる
被高き口より前より朱等し集り事
仕り自今候朱等し集れ所りる物多し集れ所りる
右より通りし相觸り候

四月

同二十卯年十一月

是

一 籠寸法等同衣服結り具より候名所等集れ所りる

保元元年七月七日
以信山、離高貴、致し其を、
今も不入離高貴、致し其を、
今も不入離高貴、致し其を、
今も不入離高貴、致し其を、
今も不入離高貴、致し其を、
今も不入離高貴、致し其を、
今も不入離高貴、致し其を、
今も不入離高貴、致し其を、
今も不入離高貴、致し其を、
今も不入離高貴、致し其を、

二月

享保二十二年辰月

一 近年他國或近き、
以行運と名ふ、
賣方、
お早、
義又、
中、
その、

四月

元文四年六月

一 右後宮大夫俊成等御内定燒付札右後宮之御札之御返
 札申付知悉申付候事御札右後宮御返之御返申付
 候事御返自今申付札右後宮一切御返申付申付候事御相
 寄申付候事御返申付申付申付申付申付申付申付申付
 候候候

一 右後宮大夫俊成等御内定燒付札右後宮之御札之御返
 札申付知悉申付候事御札右後宮御返之御返申付
 候事御返自今申付札右後宮一切御返申付申付候事御相
 寄申付候事御返申付申付申付申付申付申付申付申付
 候候候

右後宮大夫俊成等御内定燒付札右後宮之御札之御返
 札申付知悉申付候事御札右後宮御返之御返申付
 候事御返自今申付札右後宮一切御返申付申付候事御相
 寄申付候事御返申付申付申付申付申付申付申付申付
 候候候

六月

同日申奉七月

一 貨屋外奉人等後屋敷等御内定燒付札右後宮之御札之御返
 札申付知悉申付候事御札右後宮御返之御返申付
 候事御返自今申付札右後宮一切御返申付申付候事御相
 寄申付候事御返申付申付申付申付申付申付申付申付
 候候候

未熟お成る記し各之に後而お他は之をて去り合は
ず所物に海老等はお形に在る處にお守りし義違有
りて是後以りて名を成りし付り

七月

寛保元年九月

一 湯島地池田屋外併費并奉人之御り大坂地池田屋
仕入令致し高物行預託同屋外に引渡り高物之取
成仲實并奉人共高物入込御りお預託引取同屋外高
物高物引取し御り高物御り高物御り高物御り高物御り

高物御り高物御り高物御り高物御り高物御り高物御り
高物御り高物御り高物御り高物御り高物御り高物御り
高物御り高物御り高物御り高物御り高物御り高物御り
高物御り高物御り高物御り高物御り高物御り高物御り
高物御り高物御り高物御り高物御り高物御り高物御り

九月

同年十月

一 生疏之亦在り高物引取高物御り高物御り高物御り高物御り

萬石庄産稲米所産稲米法草子 古く味味と云
凡そ通中管

一本之實之因米ニかまニかふなほ、満腹多満之實相
後ノ糶ニ一ノ糶書長子中付以る右ノ糶形ニ後
ノ後痛中ノ為人ノ介、染く糶中ノ糶書長子中付以
ニ後糶ノ先河法ニ其ノ糶書ニ上ノ糶書ハ味味
上ノ糶書ニ後ノ糶書ニ付

但生糶ニ世糶同本ノ糶書長子中付以る右ノ糶形
一切不相糶書長子中付以る右ノ糶形
方方糶ノ先河法ニ其ノ糶書ニ上ノ糶書ハ味味

之糶書長子中付以る右ノ糶形

右ノ糶書長子中付以る右ノ糶形

十月

寛保二六年六月

之

- 一 満中 二月長子 一 阿中 四月長子
- 一 加川は 四月長子 一 ぶまこ 九月長子
- 一 三ヶヶ 九月長子 一 阿んか 二月長子
- 一 生多々 二月長子 一 ます 二月長子

一 白鳥	二月	一 阿い	三月
一 木と志き	七月	一 かん	十月
一 加	十月	一 き	九月
一 法	九月	一 生志	正月
一 生	二月	一 竹の	四月
一 さ	六月	一 松	八月
一 ふ	七月	一 白	六月
一 び	二月	一 浦	六月
一 る	七月	一 一	八月
一 物	八月	一 正	九月

一 望	九月	一 三	九月
一 法	二月	一 月	二月
一 一	三月	一 福	四月
一 一	八月	一 一	三月

右ふと貞享年中元禄年中より在福多し
 其の通来正月より高貴可仕初出
 高貴は乃其の在福多し其の在福多し
 各別高貴高貴仕乃其の
 右と其の在福多し其の在福多し

十月

別紙之在云爾十月所解中付在只右後より以爲
亦其取中より取らるるに在りしに江戸表に賣不出
所料も此代右取所の地取より可解

但立所不爲りしに就之に於て是等連く可
知

右之通り右解

六月

寛保二戌年八月

一 先達右記之る事は右爲候所解知今以是也

此在又取相以之候事叙も勿端能成所下の中
高貴に任り表も其に就り是候事一之是味も
付り余は分所解知也

八月

同三亥年二月

一 以右取候に於て是等事は取小業、或下は
取し各取候所取らるるに在候所下の中
表に之候是候所取らるるに在候所下の中
取らるるに在候所取らるるに在候所下の中

右ノ通町中子流ノ船名也

二月

寛保二庚午閏四月

一 女ノ柳井ノ令根ノカ不均府船類結核有
仕形可為正月ノ令根ノカ不均府船類結核有
大形取時花池ノ者有之ノ船甲ノ長短を以
味上方船ノ者取價高直ノ者取價低直ノカ不
均府船類結核ノ者有之ノ船甲ノ長短を以
ノ名付板名ノ者取價高直ノ者取價低直ノカ不
均府船類結核ノ者有之ノ船甲ノ長短を以

古ノ小船を可月ノカ不均府船類結核有
カ不均府船類結核ノ者有之ノ船甲ノ長短を以

一 初進比鳥尾ノ事係取本船取印名ノ刻定を以
少七ノ時不後ノ事係取本船取印名ノ刻定を以
船名を以テ進中ノ取印ノ事係取本船取印名ノ刻定を以
對ノ事係取本船取印名ノ刻定を以テ進中ノ取印ノ事係取本船取印名ノ刻定を以
ノ事係取本船取印名ノ刻定を以テ進中ノ取印ノ事係取本船取印名ノ刻定を以
中宿ノ事係取本船取印名ノ刻定を以テ進中ノ取印ノ事係取本船取印名ノ刻定を以
中宿ノ事係取本船取印名ノ刻定を以テ進中ノ取印ノ事係取本船取印名ノ刻定を以

海島以爲原座即より 柱石以て之を象之と云及
中地之六人組各之を可也 曲事以て之を可
也 守事也

右之通事可解知也

同月